

令和4年度 文部科学省委託事業

就職氷河期世代を対象とした教職に関する  
リカレント教育プログラム事業

成果報告書

国立大学法人香川大学

令和5年3月

## 目 次

|                              | ページ |
|------------------------------|-----|
| 1. 事業の概要 . . . . .           | 1   |
| 2. 事業の実施状況 . . . . .         | 2   |
| 3. 講習 9 科目の実施 . . . . .      | 3   |
| 4. 成果 . . . . .              | 1 1 |
| (1) 受講者は 78 名 . . . . .      | 1 1 |
| (2) 受講証明書は 21 名に発行 . . . . . | 1 2 |

## 1. 事業の概要

当初は次のように計画していた。昨年度に引き続き、教員免許状を有するものの教壇に立ったことがない者等を対象に、オンラインによる免許状更新講習をパッケージで提供し、短時間で集中的に受講できるようにする。また、学校現場での基本的な教育の実践経験や最新の教育の実践経験を積むとともに、教職への不安や悩みについて相談できるようにするなど、附属学校園等を活用したサポートパックを構築し、希望する受講者に提供する。

しかし、令和4年7月1日から教員免許更新制度が廃止となったため、次のように変更した。対象を限定せず、現職教員向けの学び直し講座として、受講料を無料にして、認定試験は受講者全員ではなく希望者に実施する。サポートパックの提供は行わない。新たな研修制度が準備されるまでの期間であっても研修を希望する方に、その機会を提供しようとしたのである。

昨年度使用したオンライン講習のうち9講習についてコンテンツの点検・更新を行い、10月1日から受講を開始した。受講者は78名で、香川県の受講者が41名と多かったが、その他の21の都道府県の受講者も37名に達した。複数の講習を受講された方が多いので、受講された講習の数は延べで414に達した。認定試験の受験があった講習の数は60で、そのうち合格は53であった。合格者には受講証明書を発行し郵送した。

## 2. 事業の実施状況

|     |   |
|-----|---|
| 7月  | ・広報の作成（チラシ、ホームページ）                        |
| 8月  | ・広報の作成（雑誌広告）                              |
| 9月  | ・オンライン講習コンテンツ点検・更新<br>・受講申し込み開始<br>・広報の開始 |
| 10月 | ・オンライン講習の開始                               |
| 11月 | ・オンライン講習の実施<br>・認定試験の実施                   |
| 12月 | ・オンライン講習の実施<br>・認定試験の実施                   |
| 1月  | ・オンライン講習の実施<br>・認定試験の実施                   |
| 2月  | ・オンライン講習の実施<br>・受講申し込みの受付終了<br>・認定試験の実施   |
| 3月  | ・オンライン講習の終了（末日）                           |

### ※ 広告を掲載した雑誌

『新英語教育』2022年11月号

『理科教室』2022年11月号

『教育』2022年11月号

『数学教室』2022年12月号

『月間生徒指導』2022年12月号

『生活教育』2022年12/1月号、2023年2/3月号

『新幼児と保育』2023年冬号

### ※ 募集要項、チラシ送付

- ・教育委員会、教育関係機関（教育センター等）：県内34カ所から各市町村の小・中学校、幼稚園、保育所、こども園等に送付
- ・公共職業安定所：県内8カ所
- ・県内の高等学校：県立高校29校、私立高校13校
- ・放送大学 香川学習センター
- ・香川大学教育学部同窓会（松楠会）各支部：全国14支部

### 3. 講習9科目の実施

#### ① 教育の最新事情

担当者：小方 直幸（香川大学教育学部 教授 教育社会学）

松井 剛太（香川大学教育学部 准教授 保育学・幼児教育学）

坂井 聡（香川大学教育学部 教授 特別支援教育）

大久保 智生（香川大学教育学部 准教授 教育心理学）

概要：最近の研究成果等をふまえて4名の講師が担当する。世界の教育の動向と日本の教育政策について、子どもの発達に関する最新の知見と子ども観・教育観について、特別支援教育に関する新たな課題とカウンセリングマインドや教員の倫理観等について、子どもの生活の変化をふまえた諸課題のとらえ方について、とりあげる。教員として知っておくべき教育の最新事情とともに、日々の実践に活かすことができる見方・考え方を提供する。

構成：・近年の教育政策の動向

- ・家庭背景と幼児教育
- ・子どもの貧困
- ・子ども観の変遷
- ・教師のまなざし
- ・Children's rights-based approach
- ・子どもの声を聴くことについて
- ・子どもの声とは
- ・聴き入ることの教育 vs 教えることの教育
- ・子どもの声を聴く実践とは
- ・溶解体験とは
- ・システムの外部を生きる
- ・子ども観・教育観を見直すために
- ・ICIDH から ICF へ
- ・「合理的配慮」
- ・引き出される力を考えてみる
- ・かかわりかたのポイント
- ・環境が障害を作り出していることに気づく
- ・子ども理解の視点と振り返り
- ・いじめ問題を考える
- ・非行や問題行動を考える

## ② 教師の指導が助長する問題行動とその見方

担当者：大久保 智生（香川大学教育学部 准教授 教育心理学）

概要：学校や学級が荒れると、教師は何とかしてそれを収めようとして、問題行動をする児童・生徒に対して様々な指導を行う。しかし、教師の努力にも関わらず、教師が指導すればするほど、問題行動がエスカレートしていく。本講習では、このような教師の指導が助長する問題行動とその見方について考えていく。

構成：・見方と考え方を变える

- ・学級崩壊の事例から
- ・答えは普段の生活に
- ・学校適応と問題行動
- ・問題行動を助長する指導
- ・反社会的行動を考える
- ・非社会的行動を考える
- ・万引きを考える
- ・いじめを考える
- ・学校の荒れへの誤解
- ・学校の荒れを考える
- ・荒れの収束の事例から
- ・地域連携の事例から
- ・間接的な対策の重要性

### ③ 心理学からみた学習意欲

担当者：岡田 涼（香川大学教育学部 准教授 教育心理学）

概要：いかにして児童・生徒の学習意欲を支えるかは重要な教育課題である。教育政策の動向としても、主体的・対話的で深い学びが重視され、児童・生徒の学習意欲を促すことが課題とされている。また、日々の教育実践においても、教師は子どもの学習意欲を高めることに注力していると思われる。この講習では、心理学において蓄積されてきた研究知見をもとに、子どもの学習意欲を支えることについて考える。学習意欲の捉え方、またその支援のあり方について、心理学的な視点から自身の実践を振り返り、方向性を探ることを目的とする。

構成：◇内発的動機づけとその支援

- ・学習意欲とは
- ・内発的動機づけの変化
- ・自律性支援
- ・自律性支援を問う

◇評価と学習意欲

- ・教育評価の次元
- ・評価の影響
- ・教育評価の共有
- ・評価にあわせた学習

◇自己効力感と学習性無力感

- ・自己効力感とは
- ・自己効力感を高める
- ・学習性無力感とは
- ・学習性無力感を防ぐ

◇メタ認知とその支援

- ・メタ認知とは
- ・メタ認知を支える
- ・自己調整の学び
- ・自己調整を支える

④ 乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ

担当者：松本 博雄（香川大学教育学部 教授 発達心理学）

松井 剛太（香川大学教育学部 准教授 保育学・幼児教育学）

概要：子どもの「声」を聞き、それを評価と計画に反映させながら保育実践をアレンジしていくことは、就学前教育・保育の質を高めていくうえで欠かせないプロセスである。「発達」「遊び」「多様性・多声性」「尊厳」「包摂」等のキーワードに基づき、明日からの具体的な保育実践を考えるうえでの手がかりを探るとともに、乳幼児保育実践の今日的課題への理解を深め、持続可能な社会に果たす保育の役割を考えていく。

構成：・子どもの尊厳と権利

- ・「子どもとつくる保育」の基本
- ・子どもとつくる保育：0歳児
- ・子どもとつくる保育：1歳児
- ・子どもとつくる保育：2歳児
- ・子どもとつくる保育：3歳児
- ・子どもとつくる保育：4歳児
- ・子どもとつくる保育：5歳児
- ・保育の質
- ・探究の園文化
- ・子どもの声を聴く
- ・保護者の参加
- ・インクルーシブ教育
- ・資質・能力
- ・小学校に向けて

⑤ 表現遊びを楽しむ

担当者：岡田 知也（音楽表現）（香川大学教育学部 教授）

藤元 恭子（身体表現）（香川大学教育学部 教授）

吉川 暢子（造形表現）（香川大学教育学部 准教授）

概 要：幼児が楽しむ音や楽器にどのようなものがあるかを確認し、楽器を実際につくったりして音を出し、それをもとに音に合わせて身体を動かしたりして表現を楽しむことを、実際に実技をまじえて講習します。

構 成：・音探し

- ・音を聴くこととは
- ・音楽的な遊び
- ・造形的な遊び
- ・身体的な遊び
- ・光と影で遊ぶ

⑥ はじめての特別支援教育

担当者：小方 朋子（香川大学教育学部 教授 特別支援教育）

中島 栄美子（香川大学教育学部 准教授 臨床心理学・特別支援教育）

概要：特別支援教育の重要性についての認識は学校現場でかなりすすんできた。しかし、特別支援教育コーディネーターの研修会は数多くあるが、コーディネーター以外の方に対しての研修はなかなか機会を確保できないと聞く。平成 28 年度から「障害者差別解消法」が施行され、学校現場においても合理的配慮についての情報が必要とされている。一度は話を聞いてみたい、研修を受けてみたい方に、特別支援教育の基本的な考え方やアセスメントについて、基礎的な事項を中心に講義する。

構成：・多様性と特別支援教育

- ・特別支援教育の制度
- ・特別支援学校・特別支援学級・通級による指導
- ・発達障害について
- ・合理的配慮について
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画
- ・自立活動について
- ・教員の専門性
- ・就学について
- ・障害理解教育について
- ・障害者雇用
- ・アセスメントの概要
- ・発達と学習のアセスメント
- ・知的能力のアセスメント
- ・社会性と行動面のアセスメント

⑦ 障害があるとはどういうことなのか？－ICF と新しい能力観－

担当者：坂井 聡（香川大学教育学部 教授 特別支援教育）

概要：ICF（国際生活機能分類）をふまえて障害を社会モデルで考え、障害があるということを子どもたちにどのように教えていけばよいのかを考えます。そして、ICTなどを活用した合理的配慮の方法と、それによって引き出される新しい能力観、これがあればできるという発想で考えることで、これからの教育を考えていきます。大学での支援の現状も提供します。

構成：・合理的配慮とは

- ・障害を社会モデルで伝えることから
- ・発達障害を知る
- ・環境を整え活動を見直す
- ・社会参加したくなる環境は
- ・可能性を引き出すために

⑧ 道徳教育の充実

担当者：植田 和也（香川大学教育学部 教授 道徳教育）

概要：教科化としてスタートした「特別の教科 道徳」の経緯や改訂された学習指導要領や解説の内容についてポイントを確認する。さらに、教科化に向けて、教員個人だけでなく各学校での取り組み、組織として何をすべきかについても考えていきたい。また、具体的な小学校や中学校で扱う教科書の教材を読みながら分析や発問について考えたり、評価の基本的な事項等について確認したりしていく。

構成：・道徳教育の使命と意義

- ・教科化の経緯
- ・道徳教育の歴史（戦後の道徳教育、各改訂のポイント）
- ・教科化の基本的理解（変わった点、変わらなかった点）
- ・学校の教育活動全体で取り組む道徳教育
- ・学校の特徴と年間指導計画
- ・道徳科の目標と内容
- ・道徳的諸価値の理解を深める
- ・指導方法の工夫と学習指導案
- ・多様な指導方法の工夫
- ・指導と評価の一体化

## ⑨ 災害に学ぶ学校防災

担当者：北林 雅洋（香川大学教育学部 教授、科学史・科学教育）

寺尾 徹（香川大学教育学部 教授、気象学）

概要：東日本大震災で津波に被災した小・中学校の現地調査および気象学の最新の知見に基づいて、学校防災の在り方を考える。主に、事前に避難し続けることのたいへんさ、釜石東中学校の「当たり前」、避難用通路の有効性、津波火災の危険性、次の手が打てる避難の重要性、大川小学校の難しさ、地球温暖化と風水害の深刻化、風水害にともなう防災気象情報と学校防災等について検討する。

構成：◇東日本大震災の津波被災小・中学校に学ぶ

- ・「奇跡」や「悲劇」から学ぶために
- ・事前の避難を続けることのたいへんさ
- ・次の手が打てる避難の重要性
- ・避難場所になった学校の困難
- ・津波火災の危険性
- ・避難用通路を設置していた学校
- ・「当たり前」の大切さ
- ・釜石東中学校の「当たり前」
- ・大川小学校の難しさ
- ・大川小学校に押し寄せた津波の特徴

◇風水害に学ぶ

- ・近年の大規模な風水害
- ・地球温暖化と風水害の深刻化
- ・風水害にともなう防災気象情報と学校防災

#### 4. 成果

##### (1) 受講者は 78 名

〈都道府県別受講者数〉

|          |          |         |          |         |         |
|----------|----------|---------|----------|---------|---------|
| 香川<br>41 | 北海道<br>2 | 岩手<br>1 | 秋田<br>1  | 宮城<br>1 | 福島<br>1 |
| 埼玉<br>3  | 千葉<br>1  | 東京<br>5 | 神奈川<br>1 | 富山<br>1 | 長野<br>1 |
| 愛知<br>1  | 奈良<br>1  | 大阪<br>3 | 兵庫<br>6  | 岡山<br>1 | 広島<br>2 |
| 愛媛<br>1  | 徳島<br>1  | 長崎<br>1 | 鹿児島<br>2 |         |         |

〈講習科目別受講者数・受講済数〉

講習科目ごとの受講の申し込み者数（受講者数）と、その中でオンラインコンテンツの視聴がすべて完了した者の数（受講済数）をまとめて示す。

|   | 講習名                            | 受講者 | 受講済 |
|---|--------------------------------|-----|-----|
| ① | 教育の最新事情                        | 58  | 19  |
| ② | 教師の指導が助長する問題行動とその見方            | 50  | 14  |
| ③ | 心理学からみた学習意欲                    | 46  | 7   |
| ④ | 乳幼児理解から「子どもとつくる保育」へ            | 45  | 6   |
| ⑤ | 表現遊びを楽しむ                       | 41  | 6   |
| ⑥ | はじめての特別支援教育                    | 52  | 10  |
| ⑦ | 障害があるとはどういうことなのか？—ICF と新しい能力観— | 50  | 13  |
| ⑧ | 道徳教育の充実                        | 39  | 7   |
| ⑨ | 災害に学ぶ学校防災                      | 33  | 8   |
|   | 合計                             | 414 | 90  |

都道府県別の受講者数で、香川県以外に 21 の都道府県からの受講者があったのは、オンラインのコンテンツによる講習であったことと、全国で市販されている教育雑誌に広告を掲載したことの効果であると考えられる。

講習科目別受講者数・受講済数で、受講済数の割合が 2 割程度と低かったことの要因は、いくつか考えられる。教員免許更新講習用に作成したコンテンツの構成のまま実施したのだが、一つの講習の内容と時間が多過ぎたのだと思われる。また、コンテンツ内のまとめりに設定された確認問題の内容と数も、負担が大きくなっていったと考えられる。加えて、希望する受講者にはコンテンツの内容を簡潔にまとめたレジュメ資料を参照できるようにしておいたが、そちらの資料である程度内容が把握できてしまったため、時間を要するコンテンツの視聴に対する必要感が減退してしまったのではないだろうか。

これらの点は、今後のこのようなオンライン講習のコンテンツ作成において、参考にされる必要がある。

## (2) 受講証明書は 21 名に発行

受講者 78 名のうち、受講証明書を発行したのは 21 名であった。証明書がどのように活用されたのかは不明であるが、その必要のある受講者に対応できるようにしておくことは重要である。

認定試験の受験があった講習の数は 60 で、そのうち合格は 53 であった。合格率 9 割弱が適切かどうかの判断はできないが、一定の質保証ができていたことの表れだと言える。